

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立荒川工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、主幹教諭2名、主任教諭2名 計5名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主任教諭(情報戦略担当) 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
荒川区産業経済部長、学識経験者(大学教授)、PTA会長、近隣中学校長、警察署長、荒川区社会福祉協議会、荒川消防署、職業能力開発センター講師、同窓会長 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～4回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月24日（金曜日）内部委員7名、協議委員8名
校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校の状況、学校経営報告及び学校経営計画の説明、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和4年11月21日（月曜日）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和5年3月17日（金曜日）内部委員7名、協議委員6名
AI部全国大会に向けての発表、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月24日（金曜日）内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和5年3月17日（金曜日）内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 回収率：97%
 - ・12月 保護者全員 回収率：34.2%
 - ・12月 地域・住民 回収率：100%
 - ・12月 教職員 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校経営計画、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、学校からの情報発信、読書指導、働き方改革、P-TECH事業、防災教育、学校の清掃状況、奉仕体験活動
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足しているが、教科・科目によっては必ずしも満足していない。
 - ・生活指導は、保護者から88%以上の支持率を得ているが、生徒の中には厳しいと不満をもつ者も多い。
 - ・次年度もホームページ等を充実させ本校の情報を積極的に発信する回数を増やしていく。
 - ・未読者を減らすための工夫が必要である。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。
 - ・生活指導は、特に高等部の生徒に目的意識を明確にもたせるとともに、あらゆる機会にマナー意識を持たせる指導が必要である。
 - ・本校の理解を深めるために、生徒が自分の母校に訪問しPRすることが有効であり、また地元の中学

校に同窓会の協力を得てPRすることも実効性がある。更には、荒川区の広報を活用したり、本校のポスターを一層工夫改善したりすることも課題である。本校の現在実践している挨拶・声かけの励行や部活動など良い点をPRすることも有効である。→一部今年度内実施

- ・東京消防庁や水道局、荒川区防災課などの外部組織と連携し町会や本校の防災訓練を充実させるなど防災教育を推進していく。→コロナ禍により計画未達成
- ・読書週間をアピールして意識させることで読書活動の活性化を図る。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
- ・本校の基盤は生活指導にある。いじめをしない、許さない指導の徹底が生徒と保護者から最も高く評価されたことは大きな成果である。また、地域から学校の印象が数年前より良くなったとの評価は頭髪や服装指導、あいさつ指導の成果である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに公開講座等の拡大・充実が必要である。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。
- ・学力に対する姿勢等について評価が低い傾向がある。また文化祭に対する満足度が低く、電気の学校である特色を活かした文化祭を実施すべきである。マナーや意識については就職重視の本校の根幹に関わることなので指導の徹底を留意する必要性を指摘された。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。
- ・学期ごとに校内研修会を実施する。

(2) 学習指導

- ・電気の専門高校である特色を活かした学校行事の推進や資格取得指導の拡充、生徒の知的好奇心を喚起する学習指導の工夫などを充実させる。

(3) 特別活動

- ・読書の習慣を確立するよう指導・援助する。読書奨励に関しては、学校、家庭ともに課題があると捉えており、生徒に多様な読書のきっかけを提供し、様々な分野の本と出会える環境を作り、読書活動を一層推進していく。

(4) 生活指導

- ・年間4回の避難訓練において外部組織との連携により、生徒の防災意識を更に育成していく。

(5) 進路指導

- ・「未来を創る！彩る！荒川工業」を柱として、「進路指導重点主義」を全教職員で取組、卒業後の進路実現に向けて、どのような未来を迎えるのかを3年間かけて考えさせる。その中で、働くことの意義を理解させ、働くことへの意欲を育てるキャリア教育を一貫して推進していく。

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラーの活用を十分に検討して有効かつ実践的に早急に対応でき、生徒が相談しやすい環境づくりを推進するとともに教職員および生徒が教育相談に関心をもてるように推進する。教育相談委員会の事例研究などの研修内容も充実していく必要がある。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	4					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人、 企画調整会議 0回 延0人

【成果】協議委員の意見を参考に、外部機関へのアピールの方法を検討し、パンフレットやリーフレットを新調し改善を図った。微増ながら募集倍率が上がった。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。
- ・働き方改革に対する生徒と保護者に対する回答と教員の回答が正対しているのはおもしろい。
- ・昨年度からアンケート集計方法にインターネットを利用したため、引き続き回答率が増加した。